

新しい年が始まり、研修医としての学びを振り返る季節となりました。今回は、学会発表を通して得た経験についてご紹介します。

11月に全国の国立病院の先生方が集まる、国立病院総合医学会が金沢で開催されました。横浜医療センターからは研修医1・2年目あわせて8名が発表し、それぞれの診療科で学んだ症例を発表しました。先生方のご指導のもと何度も打ち合わせを重ね、スライドを作り直しながら準備を進めてきた同期、後輩の姿はとても頼もしく感じました。発表を終えたあとは、兼六園を観光したり、美味しい金沢の名物を食べたりと、充実した時間を過ごしたようです。

私は今回、金沢の学会には参加できませんでしたが、同じ時期に別の学会で発表の機会をいただきました。

指導医の先生と何度もディスカッションを重ねながら症例をまとめる過程は大変でしたが、ひとつの症例を深く掘り下げて考える面白さも感じました。

発表当日は緊張しましたが、終わった瞬間には大きな達成感があり、他院の先生方との交流や質疑応答も含めて、とても貴重な経験になりました。

また、学会発表以外にも、横浜マラソンの救護ボランティアなど、地域での活動に参加する機会もあります。患者さんとはまた違う形で人と関わることができ、そうした経験が日々の診療や患者さんへの向き合い方にもつながっていると感じます。

横浜医療センターでは、研修医それぞれが自分のペースで学びながら、興味のあることに少しずつ挑戦できる環境があります。医学生の皆さんにも、ぜひ臨床や地域の中での“学びの楽しさ”を体感してほしいと思います。

